

2004 年度 3 年次編入学試験「実技試験」「小論文」等の採点基準

| 学 科 | 内 容 |
|--------------------------|---|
| グラフィックデザイン学科 | 出題のねらいは、デザイナーとしてヴィジュアルコミュニケーション効果を造り出す為に必要なデザイン力を求めています。それには、創作の原点ともなる観察力、そこから生まれる発見やひらめきなどを描けるのかを審査し採点基準としました。 |
| 生産デザイン学科 プロダクトデザイン専攻 | 与えられた材料(ゴム製のボール)を応用して新しい道具を 4 種類創造し、スケッチ表現する課題と、ポートフォリオによる面接を行ないました。まず、4 種類のアイデアに独創性があるか、そのアイデアをきちんと表現できているかを採点基準としました。ポートフォリオでは、当科 1、2 年次で修得すべき実技内容をクリアできているかを最も重要視しました。 |
| 生産デザイン学科 テキスタイルデザイン専攻 | 受験者が本専攻の基礎過程(1、2 年次)と同等の実力を有しているか、3 年からの課程内容に問題なく編入が可能かどうかを面接試験等で審査いたしました。実技試験(デザイン)ではテキスタイルデザインを実践する上で必要な観察力と色彩表現力を問いました。ただし、単なる客観的描写力だけではなく、さらに独自の表現世界を示す内容を求めています。 |
| 環境デザイン学科 | 本学科の 1、2 年次で学ぶ内容と同等以上の教育を受けているか、また本学科の 3 年生と同レベルの知識、デザイン力があり、編入学後の授業についていけるかどうか、大学を変えること、方向を変えることに対する目的意識がはっきりしているかどうかを採点基準としました。 |
| 情報デザイン学科 | 日常生活における観察力、それを言葉で表現する記述力、事柄の仕組みや背景についての理解力、分析力、作品表現における構成力、発想力、独創力を評価し採点基準としました。 |
| 芸術学科 | 芸術や文化に対する深い関心を持っているか、自分の考えを明確に言葉で表現できるか等を評価の採点基準としました。 |
| 全学科共通 小論文 | 論旨の一貫性、表現の的確さ・豊富さ、分量の適切さを採点基準としました。 |

実技試験を実施していない学科・専攻については掲載していません。

2005年度3年次編入学試験「実技試験」「小論文」等の採点基準

| 学科・専攻 | 実技試験(芸術学科は小論文) | 面接 | | |
|------------|--|--|-------|----------|
| | 狙い・意図、採点のポイント | 狙い・意図、採点のポイント | 小論文利用 | 実技試験作品利用 |
| 日本画 | | 絵画に対する思考力・人格資質、学業に対する情熱を総合的に所見し、採点基準としました。 | | |
| 油 画 | | 編入学後、何をしたいか等、志望理由が明確か。自作の制作意図をきちんと述べられるか。美術全般に対して興味の持ち方、意欲、積極性。今までの学校での学習の様子。 | | |
| 版 画 | | 版画科銅版2年次と同程度の技術力、表現力が備わっているか。 提出作品の内容評価 本人の意欲(小論文と面接の問答) | | |
| 彫 刻 | | 【作品提出採点ポイント】 基本的には、本学部の基礎実技レベルと大きな格差が無いことを基準としました。ここで言う基礎実技とは、各大学の定める基礎実習カリキュラムによって異なりますが、基本的なデッサン力や造形能力を審査し、本学科3年次からの専門実技にスムーズに移行しうる、素材に関する知識や技能を備えているか総合的に判断しました。 【面接試験のねらい】 彫刻領域への関心や知識、または現在の研究領域、将来の展望など多角的な質問を行い、進学後、専門実技において意欲的に研究を行なう意欲や能力があるか、また、提出作品についての質問や、小論文なども参照し総合的に判断しました。 | | |
| 工 芸 | | 他校からの受験生が多摩美術大学の学業で競い合っ進められるか。これをポートフォリオ、作品を元に受験生の発言から見極めることを目的とします。 | | |
| グラフィックデザイン | 出題のねらいは、デザイナーとしてビジュアルコミュニケーション効果を造り出すために必要なデッサン力を求めています。それには、創作の原点ともなる観察力、そこから生まれる発見やひらめきなどを描けるかを問います。 | 面接試験のねらいは、当学科の授業への取り組みの意欲を把握し、作品・ポートフォリオによって基礎的な造形力の評価を行います。 | | |
| プロダクトデザイン | 与えられた材料(アクリル製透明パイプ)を応用して新しい道具を4種類創造しスケッチ表現する課題。アイデアに独創性があるか、そのアイデアをきちんと表現できているか。 | ポートフォリオによる面接。ポートフォリオでは、当科の1年生、2年生で習得すべき実技内容をクリアできているかが最も重要視されました。 | | |
| テキスタイルデザイン | テキスタイルデザインを学ぶために必要な基礎的観察力、色彩表現力に加えデザイン力を問うことをねらいとして出題しました。また、解答の中に設問に対する解釈と独自の表現が示しているか。 | 受験生が本専攻の基礎課程(1年次、2年次)と同等の実力を有しているか、また、3年次からの授業についていけるかどうかを持参作品によって審査しました。さらに、口頭及び記述によって自分の考えやテキスタイルデザインを学ぶための熱意を明確に説明できるかも評価の対象としました。 | | |
| 環境デザイン | 本学一般入試と同レベルのデッサン力があるか。形、空間を把握し、平面上に表現する能力があるか。 | 在籍中の学校において本学科の1年次、2年次で学ぶ内容と同等以上の教育を受けているか、また本学科の3年生と同レベルの知識、デザイン力があり、授業についていけるかどうか。学校を変えること、専門分野を変えることに対する目的意識がはっきりしているか。デッサン以外のデザイン力をポートフォリオによって評価しました。 | | |
| 情報デザイン | | 当学科の1年次、2年次に習得すべき知識と技術と同レベルの実力を持っているか、あるいは多分野で身につけた専門性を当学科の学びで生かすことができるかを採点基準としました。また、日常生活における観察力、それを言葉で表現する記述力、事柄の仕組みや背景についての理解力、分析力、作品表現における構成力、発想力、独創力を評価しました。 | | |
| 芸術 | | 受験生の知的能力、知的関心が芸術学科の専攻領域の研究を進めていけるだけのものを持っているのかをチェックしたい。芸術の理論や歴史に関する基礎知識を持っているのかもチェックしています。他の学生とコミュニケーションを活発に行える人柄や性格を持っているかどうか選考のひとつの要件となります。 | | |

全学科共通小論文

3年次編入を希望する出願者に対しては、すでに大学の教養課程に相当する課程を修了していることを前提とし、さらに芸術上の研究を行なう準備が出来ているか否かを問うため、出題には芸術に関するテーマを選びそれに対して各自がどのような問題を意識を有しているのかがまず評価の対象になります。それに加えて、文章力のあるなし(すなわち、自分の意見を的確にまとめて、明確に伝える能力)が評価されて、全体の得点となります。